

県内経済の動き (2018年1月)

基調判断 緩やかに持ち直している

| | | | | | |
|-----------|---|---------|------|---|-------------|
| 製造業 | → | 横ばいの動き | 公共工事 | → | 持ち直しの動きに一服感 |
| 大型小売店販売動向 | ➡ | 持ち直しの兆し | 観光 | ➡ | 持ち直しの兆し |
| 乗用車販売動向 | → | 横ばいの動き | 雇用 | ➡ | 高水準で推移 |
| 住宅着工 | ➡ | 持ち直しの兆し | 企業倒産 | → | 低水準が続く |

[直近の3カ月の変化の方向] ➡上向き ➡横ばい ➡下向き

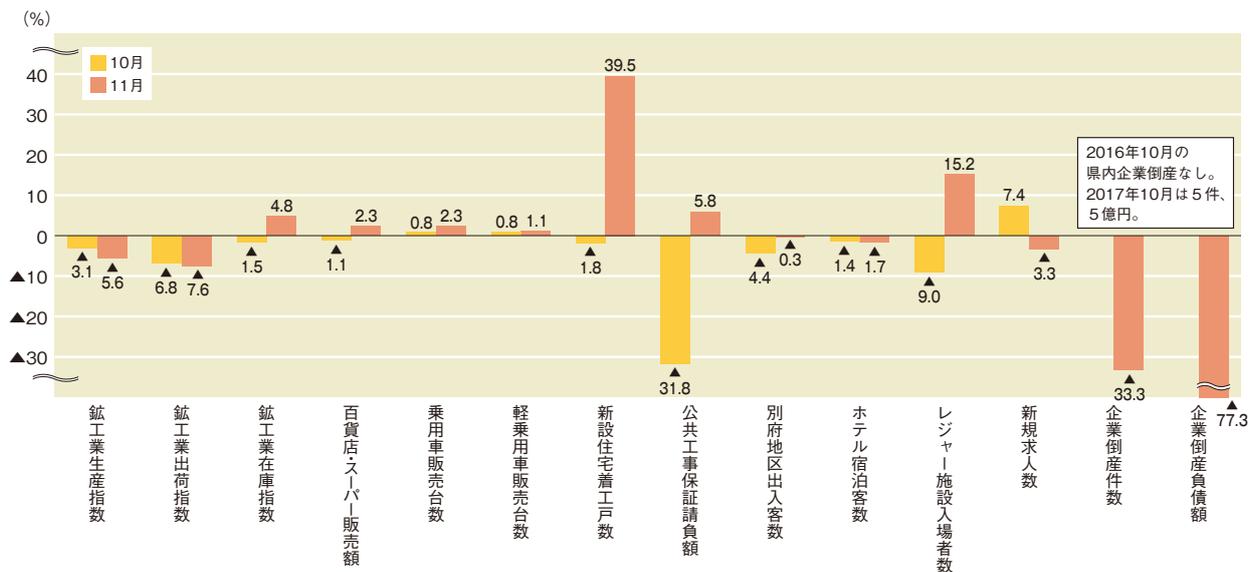
注) 1. 大型小売店販売動向は、百貨店・スーパー・専門量販店(家電大型専門店・ドラッグストア・ホームセンター)の販売動向

大分県の主要経済指標の動き

| | 2016.11 | 12 | 2017.1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
|-------------|---------|------|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 鉱工業生産指数 | ○ | △ | ● | ● | ● | ● | ○ | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 百貨店・スーパー販売額 | ○ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ |
| 乗用車販売台数 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 軽乗用車販売台数 | ● | ● | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 新設住宅着工戸数 | ● | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ● | ○ |
| 公共工事保証請負額 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ● | ○ |
| 別府地区出入客数 | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● | ● |
| ホテル宿泊客数 | ● | ○ | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● | ○ |
| レジャー施設入場者数 | ● | ○ | ● | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ● | ● | ○ |
| 新規求人数 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ● |
| 企業倒産件数 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ● | ● | ● | ○ |
| 企業倒産負債額 | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ● | ● | ○ |
| プラス指標の割合 | 66.7 | 75.0 | 66.7 | 58.3 | 50.0 | 83.3 | 75.0 | 66.7 | 66.7 | 41.7 | 33.3 | 25.0 | 66.7 |

注) 1. 指標は前年同月比較 ○=前年比好転 △=前年並み ●=前年比悪化
 2. 公共工事保証請負額は西日本建設業保証分
 3. ホテルは県内主要宿泊施設の計、レジャー施設は別府および隣接地区の計
 4. 別府地区出入客数はJR別府駅、大分空港乗降客数、別府IC乗降車数計

県内主要経済指標 (10月・11月分の前年同月比)

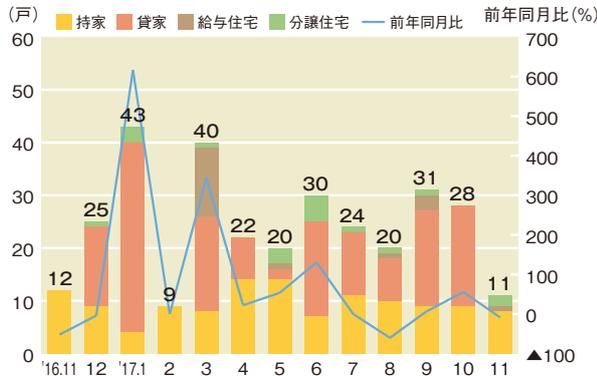


注) 1. ホテルは県内主要宿泊施設の計、レジャー施設は別府および隣接地区の計
 2. 別府地区出入客数はJR別府駅、大分空港乗降客数、別府IC乗降車数計

● 由布地区の経済指標

由布市の新設住宅着工戸数は、2017年9月から11月までの3ヵ月間の累計で70戸と、前年同期比11戸増加しました。また、同期間の由布院駅降客数は前年同期比38.8%減の約5万人でした。九州北部豪雨で鉄橋が流失したことに伴いJR久大本線の一部区間（日田－光岡間）が不通となっている影響等で、7月以降は前年同期比マイナスが続いています。

新設住宅着工戸数



資料) 国土交通省「住宅着工統計」

由布院駅降客数



資料) JR由布院駅

● 県内企業の景況意識調査 (2017年10~12月期)

緩やかに改善

◎業況判断

【今期】今期（2017年10~12月期〈Ⅳ期〉）の業況判断BSIは、前期比4.5ポイント上昇の▲7.2となりました。

BSIの内訳をみると、「よくなった」と回答した企業は前期と同水準の11.7%、「悪くなった」は同4.5ポイント減の18.9%、「変わらない」は同4.4ポイント増の69.4%となりました。

業種別のBSIは、『製造業』『卸・小売業』『運輸業』『サービス業』の4業種で改善しました。

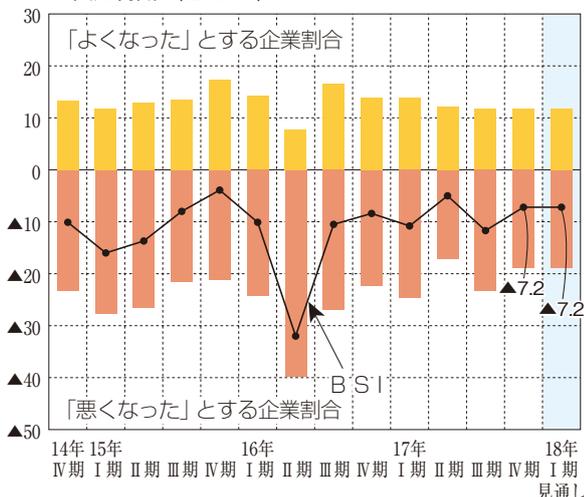
【来期】来期（2018年1~3月期〈Ⅰ期〉）の業況判断BSIは、今期と同水準の▲7.2となる見通しです。

BSIの内訳をみると、「よくなる」と回答した企業は今期比0.1ポイント増の11.8%、「悪くなる」は同0.1ポイント増の19.0%、「変わらない」は同0.2ポイント減の69.2%となる見通しです。

業種別のBSIは、『建設業』『金融・不動産業』『サービス業』の3業種で改善する見通しです。

県内企業の景況感は、2016年Ⅱ期に熊本地震の影響で大幅に落ち込んだ後、翌期には震災前の水準まで回復。その後は緩やかな持ち直し基調にあるものの、2017年7月に九州北部豪雨、9月に台風18号による水害と大規模な災害が相次ぎ、10月も週末に2度台風が接近し小売業などで影響を受けており、県内企業の景況感は本格的な回復には至っていません。

業況判断 (BSI)



業況判断指数内訳 (BSI)

| | 2017年Ⅱ期 | 2017年Ⅲ期 | 2017年Ⅳ期 | 2018年Ⅰ期見通し |
|---------|---------|---------|---------|------------|
| 鉱業 | 0.0 | 100.0 | 100.0 | 0.0 |
| 建設業 | 3.5 | 7.2 | 6.2 | 15.6 |
| 製造業 | ▲10.3 | ▲14.2 | ▲6.8 | ▲8.2 |
| 卸・小売業 | ▲14.7 | ▲16.9 | ▲16.7 | ▲22.0 |
| 金融・不動産業 | ▲14.3 | 0.0 | ▲14.3 | 0.0 |
| 運輸業 | 5.9 | 6.2 | 12.5 | 12.5 |
| サービス業 | 10.5 | ▲25.7 | ▲15.2 | ▲12.1 |
| 全産業 | ▲5.0 | ▲11.7 | ▲7.2 | ▲7.2 |

*BSI (Business Survey Index) とは、企業経営者の業況に関する判断等を「よくなる・よくなった」、「変わらない」、「悪くなる・悪くなった」という3つの形式で回答を求め、これを数値であらわしたものです。BSIは次の数式で求められます。①(よくなる)+(変わらない)+(悪くなる)=100%とします。②(変わらない)の回答分を除きます。③BSI=(よくなる)-(悪くなる)で計算します。BSIが前期を上回れば景況は改善、前期を下回れば悪化という見方をします。